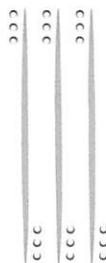


特集

養護教諭の専門教育を考えるⅡ

—現代的健康課題を抱える子どもの育ちを支援する養護実践と専門性—



子どもの成長と生活実感に寄り添う 養護教諭をどう育てるか

—教授学（授業研究）の視点から養護教諭の力量形成を考える—

住田 実

はじめに

〈シネマの視聴も取り入れた「教職実践演習」（養護教諭養成課程）から〉

筆者が担当している養護教諭養成課程の「教職実践演習」や養護教諭1年目の「初任者研修」、そして養護教諭対象の「教員免許状更新講習」においては、実際の学校教育・学校保健現場をめぐるシネマの一部視聴によるグループディスカッションを重視している。

それにしても、養護教諭の養成課程において、なぜシネマの視聴なのか。しかも、編集部より本稿に与えられたテーマである「現代的健康課題の渦中にある子どもの育ちを支援する養護教諭の専門性と実践を考えていくうえで、とくに養護教諭の養成課程の立場からカリキュラムマネジメントの考え方や専門教育のあり方を考察する」にあたって、シネマ等の映像教材はどのように関係するものなのか。これには教授学の視点（具体性の原理）から、養護教諭の専門性と力量形成を考えたいとする意図が大きく関係している。

次の事例紹介は、現代的健康課題としては、特別支援教育、不登校、いじめ、虐待等と並んで新たに注目されているLGBTの問題である。

1. 学校保健の事象への豊かなイメージと感情移入から健康課題の把握へ

まずは、海外の映画祭でも評価の高い荻上直子^{注1)}監督による映画『彼らが本気で編むときは、』（2017年作品）の一場面である^{注2)}。

中学校における柔道の授業。

「組み手（柔道の練習形式の1つ、2人で相対して、決まった手順にしたがって技を掛け合う）」から床に倒れて悲鳴を上げる男子生徒。教師も含めて、大きな笑いに包まれる柔道場。この男子生徒には、小さな頃から体と心の性が一致しないという違和感（性同一性障害）があった。

場面は変わり、学校に呼び出された保護者（母親）。

「お宅のお子さんは、体育の授業をなめているのでしょうか？」

会議室で、保護者を責める教頭と体育教師。柔道の授業日になると、男子生徒は体調不良や欠席により、実技の参加を拒否しているというのだ。

帰宅した母親。そこには、ベッドの上で膝を抱え、肩を震わせて自身が性的マイノリティであることを告白する息子の姿。

「お母さん、あたしね、おっぱいが欲しいの」
その一瞬、戸惑い動揺する母親。

しかし、ゆっくりと大きく深呼吸して覚悟をきめ、息子の肩をやさしく抱いて囁く。

「そうだよね。リンちゃんは、女の子だもんね…。」

(肩を震わせて泣き崩れる息子)

「泣かなくていいんだよ。リンちゃん、何にも悪くないんだから」

母親役の女優・田中美佐子さんは、この場面の演技が切なくて、しかしまつとも印象深い場面の1つだったと発言している(NHK教育TV:「LGBTを当たり前に～映画監督・荻上直子～」2017年2月28日放送)。

授業(および研修)では、シネマ中の学校教育・学校保健にかかる厳選映像に食い入るように視聴する学生たち。涙をためている者もいる。まさにシネマによる感情移入と性的マイノリティをめぐる豊富なイメージづくりである。

授業に先立って、学生たちは、文部科学省「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」(2015年)の資料を渡している。配布当初はほとんど反応がなかった学生たちだが、一連の映像を見終わった時点で、とたんに熱心なグループディスカッションが始まることが常である。

ある学生は言う。

「シネマを見る前は、文科省の文書は単に通知文書として、ただ『ふ~ん』と目を通すだけの感じでした。ところがシネマの視聴後にその文章を改めて読み返すと、その各々の意味が改めて文章の端々で、映画の場面が生き生きとよみがえるのです。」

学生たちによるディスカッションの材料として、例えば以下の支援事例(文部科学省「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」¹⁾)は、そのまま映画の場面がイメージできるという。

例えば、「全国の学校では学校生活での各場面における支援として別紙に示すような取組が行わ

表1 性同一性障害に係る児童生徒に対する学校における支援の事例(文部科学省、2015¹⁾)

項目	学校における支援の事例
服装	・自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める。
髪型	・標準より長い髪型を一定の範囲で認める(戸籍上男性)。
更衣室	・保健室・多目的トイレ等の利用を認める。
トイレ	・職員トイレ・多目的トイレの利用を認める。
呼称の工夫	・校内文書(通知表を含む)を児童生徒が希望する呼称で記す。 ・自認する性別として名簿上扱う。
授業	・体育または保健体育において別メニューを設定する。
水泳	・上半身が隠れる水着の着用を認める(戸籍上男性)。 ・補習として別日に実施、またはレポート提出で代替する。
運動部の活動	・自認する性別に係る活動への参加を認める。
修学旅行等	・1人部屋の使用を認める。入浴時間をずらす。

れてきたところであり、学校における性同一性障害に係る児童生徒への対応を行うに当たって参考とされたいこと。」

表1は、その中で紹介されている支援事例であるが、太字の箇所は、学生たちがディスカッションの中で養護教諭・保健室の立場から、とくに教職員に理解を求めたい内容である。そのプロセスにおいて、視聴したシネマの場面はきわめて参考になったという。

2. 学校保健の事象をめぐる豊かなイメージと感性

「生活継り方教育」に学ぶ力量形成

さて、養護教諭の力量形成を考えるにあたって、教授学の具体性の原理が参考になる。この分野で著名な実践者は東北地方を中心とした、「生活継り方」の教師たちである。「生活継り方教育」の重要な仕事は、そこで「『概念くだき』と呼ばれるほどに、子どもの概念的な思考を打ちこわし、具体的な思考に引きもどす」ことに向けられた²⁾。

例えば、ある子どもの次の文がある³⁾。

【A】「うちのお母さんは、ほんとによいお母さんです。自分のことよりも、わたしたちのことを、いつも心配してくれます」

「生活綴り方」では、子どもがこのような抽象的な文を書いてきた場合、次のように問うという。

「いつ、どこで、どんなときに、どんな事柄とぶつかって、そう考え、そう感じたのか、その考え方や感じが出てきたものとのところを書きなさい。

そこで、「生活綴り方」では、次のような文のほうが好ましいという。

【B】「うちの母ちゃんは、いつも頭のかみをバサバサにしています。それで、わたしが、『母ちゃんもたまにはパーマに行っておいでよ』などと、『パーマに行く金があったら、お前らのもの、ひとつでもよけいに買ったほうがよい』といいます。」

【A】と【B】の文章レベルの相違は、おわかりだと思う。【A】に見る一般的抽象文は、【B】のような一見些末とも思える臨場感あふれる事実を豊富にイメージすることによって意味を持つ。これらの文例は、国分の『生活綴り方読本』⁴⁾に所収のものであるが、「生活綴り方」は子どもたちのみならず、若い教師たちの力量まで高めていったという。筆者は養護教諭の力量形成にとっても、以上の視点による生活背景や健康問題の把握力の育成は意義深いと考えている。

翻って、文部科学省「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」¹⁾で考えてみよう。

「性同一性障害に係る児童生徒や『性的マイノリティ』とされる児童生徒は、自身のこうした状態を秘匿しておきたい場合があること等を踏まえつつ、学校においては、日頃より児童生徒が相談しやすい環境を整えていくことが望まれること。

このため、まず教職員自身が性同一性障害や『性的マイノリティ』全般についての心ない言動を慎むことはもちろん、例えば、ある児童生徒が、その戸籍上の性別によく見られる服装や髪型等をしていない場合、性同一性障害等を理由にしている可能性を考慮し、そのことを一方的に否定したり揶揄（やゆ）したりしないこと等が考えられること。」（文部科学省「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」）¹⁾

先の分類によれば、上は【A】であり、映画『彼らが本気で編むときは、』の内容は【B】であろう。しかし、【A】の解説的な通知文が無意味だといっているのではない。【A】の意味は、あらかじめ【B】のような豊富なイメージの土台があることで、その意味はよく「わかる」はずである。

養護教諭養成課程の『養護概論』の指導では、学校保健をめぐる【B】のレベルによる適切なイメージの形成がきわめて大切であると思われてならないのである。

3. 「概念くだき」と「概念づくり」

養護教諭の教育実践において、以上が子どもの生活背景や生活実感、健康問題の把握力の育成とするならば、子どもたちへの科学的な健康認識の育成も大切な課題である。

教授学者の柴田義松氏⁵⁾は、「抽象的な思考を否定するのに『概念くだき』ということが生活綴り方ではいわれたが、そこで意図されたものは實際には、対象についての豊かで具体的な『概念づくり』であった」（傍点：引用者）という。

同じく教授学者の横須賀薫氏⁶⁾は、養護教諭の教育実践を念頭に次のように述べており、きわめて興味深い。

「教師の世界に“概念くだき”と“ゆさぶり”という言葉があるのをご存知だろうか。（中略）

前者は児童・生徒の文章表現と事実とをつきあわせることを通して、建前の考え方、強い思い込み、優等生の思考から抜け出させてやることで

ある。後者は授業における教師の発問に角度や振幅をつけることによって、同様のことを実現しようとするものである。(中略)

保健分野では、児童生徒にはからだとその発達について、健康や疾病について、性の問題について、さまざまな思い込みや間違ってはいないとしても、あまりに優等生的な理解におちいっているようなことがたくさんあるはずである。他の分野以上に、その可能性は強いだろうと思われる。(中略) そう考えたとき、仕掛けとしての教材づくりが意味をもってくるにちがいない。」⁶⁾(傍点:引用者)

筆者もまったく同感である。建前的な考え方、強い思い込み、優等生的思考をめぐる「概念くずし」と「概念づくり」は、養護教諭の教育実践力の形成においてもっとも基盤となる視点と考えたい。

4. 映画「男はつらいよ」より

〈俳優・渥美清さんの感性から学ぶ生活実感へのまなざし〉

さて再びシネマの話題である。先の映画「彼らが本気で編むときは。」により学校保健と性的マイノリティに関わる映像の視聴は、グループディスカッションも含めて個別事例への豊富なイメージづくりを意図したものであった。

次の話題として、筆者の授業実践では直接には学校保健現場ではないものの、子どもの生活実感にどのように寄り添うか、さらに多様なエピソードによって考えさせている。

NHK・TV(総合)で2016年に放映されたドラマ『トットてれび』、黒柳徹子さんの自伝エッセイ『トットチャンネル』をもとに、著名芸能人、脚本家、テレビ制作者との交流からテレビ草創期の熱気を描いたドラマである。その第6話では、黒柳さんと大の友人であった渥美清さんとのエピソードがある。

毎年正月、映画「男はつらいよ」の封切直後の

映画館にマスクをした渥美清さんの姿。

黒柳：にいちゃん(黒柳さんによる渥美清さんの呼称)ねえ、やっぱり試写で観ると、こうやって映画館で観るのとは違う?

渥美：そりや違うよ。客がどこで笑うか、知りたいんだよ。あの、ほら、今日家族がメロン食べてて、寅が急に帰ってきて、寅のメロンがなかったところがあったでしょ。あれさ、都会の映画館だったら、ああやってみ~んな笑うんだよ。だけど下町の映画館だったら、誰も笑わない…。

黒柳：どうして…?

渥美：寅のメロンをとっておくのが当然だろうって、こうくるわけだ。ああ～、勉強になるんだねえ…。

黒柳：(回想) 兄ちゃんは小さな目で、世の中と人生を誰よりも深く、しっかりと見つめていたのだ。

前述の通り、このエピソードは直接には学校保健とは無関係である。しかしながら、映画俳優として常に「同じ場面・台詞・ストーリー」でさえ、その受け取り手の生活背景・実感によって、「喜劇」でさえも観客の反応は真逆の場合があることを敏感に気づく感性-、それは、相手の姿の奥に隠れた生活背景への余りにも深いまなざしである。さまざまな家庭環境で生きる子どもたち、その心の問題への対処に日々直面する養護教諭・健康教育者にとっても大変参考になる。

必要であれば演劇・文学等のすぐれたエピソードとの出会いにより、学生たちは保健室を訪れる子どもたちの生活背景、さらに学校・家庭・地域の問題として話題を広げて活発なディスカッションが展開されるのが常である。

5. 「自己有用感・自己肯定感(自尊感情)」を高める養護教諭の教育実践

文部科学省『現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～』(2017

年)では、養護教諭の職務の特質として次の2点が改めて明記されたことは意義深い。

- ・養護教諭は、児童生徒の身体的不調の背景に、いじめや不登校、虐待などの問題が関わっていること等のサインにいち早く気付くことができる立場であることから、児童生徒の健康相談において重要な役割を担っている。
- ・さらに、教諭とは異なる専門性に基づき、心身の健康に課題のある児童生徒に対して指導を行っており、従来から力を発揮していた健康面の指導だけでなく、生徒指導面でも大きな役割を担っている。

また養護教諭は、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力を育成するために、教職員や家庭・地域と連携しつつ、日常的に「健康な生活を送るために児童生徒に必要な力」として、次の4つを育成するとされている。

- ①「心身の健康に関する知識・技能」
- ②「自己有用感・自己肯定感（自尊感情）」
- ③「自ら意思決定・行動選択する力」
- ④「他者と関わる力」

このうち、①②③について、まさにお手本といえるきわめて素晴らしい養護教諭の実践が発表されている。岩辺京子先生の保健授業「目ざめを学んで、きょうもイキイキ！」(小3・保健指導)⁷⁾である。

学校の保健室で子どもたちの健康や日々の生活のリズムを見守っている養護教諭の岩辺京子先生。養護教諭として普段からみんなの健康を見守っている先生は、最近子どもたちの生活が夜型になって、低学年のうちから睡眠時間が短くなっていることを心配する。そこで、学級担任と連携し、体の仕組みや、しっかり眠ることの大切さを伝える授業を行った。

まずからだの仕組みについて知ってほしい。そこで先生が3年生の教室で取り出したのは、「脳」「目や口」「手・足」「胃・腸」という4つの部分が示されている大きな人体のパネル。これを使って、朝起きたとき、体はどの部分から目覚めていくかを考える。特に、保健指導の前後に「1本の

棒」を使い、自分のからだを通して睡眠の大切さについての問題意識を高めていく。

まず、子どもたちへの課題、「生活しらべカード」

寝た時間、起きた時間、睡眠時間。

顔を洗った、朝食、トイレ、よく動いた、今日の調子。このカードから、毎日を元気に生き生き暮らすにはどうしたらよいのか、ということを各自で考えて作戦を立てさせる。

～1週間後～

「生活しらべカード」の結果は、寝る時刻が11時や12時になり、睡眠時間が足りない子どもが数多くいた。子どもたちは、自分のからだを見直し、改めて睡眠や朝食のことを考えた。

「もう1週間、やってみたらどうかと思うのですが、どうでしょう。」

そこで、これから1週間、おうちの人と相談して、どうやったらよいか作戦を立ててみてください。3年1組みんなでからだを元気にする作戦に取り組みます。

まず、「1本の棒」を用いて、児童の朝の「目覚め度」を調査する。一週間後に、再び「1本の棒」を用いて、同じ調査をする。その調査を通して、自分の体の変化と睡眠の大切さについての問題意識を高めていく。

【問題】さて、その調査とは、どのような調査でしょう？（上から落ちる棒を「手のひらで瞬時に掴む」という動作による敏捷性の反応テスト）

～さらに1週間後～

岩辺京子先生は、登校してきた子どもたちに「棒反応テスト」を行った。脳がしっかりと目覚めて素早く反応できるかどうかのチェック。

1週間前に同じテストを行ったときよりも、みんな素早く反応できている。

養護教諭「あっ、この前とこんな違うじゃない。よかったね、すごいねえ。」

A君「ぼくははじめ寝るのがいつも12時頃で、すごく疲れていたから目覚めが遅くて、(学校の)2時間目にやっと目が覚めるほどでした。けれども睡眠時間を増やすという目標を立て、食事を早くしてもらう作戦を立てました。2回目はしっかり寝て起きるようになり睡眠時間が2時間半も増えました。勉強のときたくさん頭に入るようになりました。」

養護教諭「よかったね、ずいぶんがんばりましたね」

次から次へと、生活改善について報告する子どもたち、「生活しらべカード」や棒反応テストの成果を通して、ほとんど全員の子どもたちの心に「自己有用感」「自己肯定感」が芽生え、「心身の健康に関する知識・技能」や「自ら意思決定・行動選択する力」も身に付いている。

すべての子どもたちに、称賛の言葉を送る養護教諭。その言葉かけを受けて、満面の笑みの子どもたち。その実践には、決して学力評価によって子どもたちを選別することがない健康教育者としての輝きがみられる。養護教諭養成課程の学生たちは、岩辺京子先生の子どもへの寄り添いと温かいまなざしに、将来の養護教諭像を描いているようである。

以上の考察は、いずれも養護教諭養成のカリキュラムマネジメントのあくまでも1例として、今回はシネマや授業記録ビデオといった映像を教育媒体にした実践紹介に焦点を当てたものである。述べるまでもなく、そのほかにも養護教諭の専門性を意識した養成のカリキュラムの創出は、熟練者による個別的な事例指導、集団的な授業・事例研究会等、さらに多様な内容があるはずである。

ただ今回の事例紹介の意図は、養護教諭が「子

どもの成長と生活実感に寄り添い支援する」ための力量形成を考えるにあたり、教育界において長年にわたり教科領域の枠をこえて培われてきた教授学(授業研究)の理論にも学ぶべき点が多いということである。それは引き続き、筆者自身の研究課題でもある⁸⁻¹⁰⁾。

※本稿の一部は、平成29~33年度・科学研究費補助金(基盤研究C):住田実「保健科教育におけるピア・エデュケーションの継続的授業実践研究」(課題番号:17K01785)による。

注

- 1) 第67回ベルリン国際映画祭(2017年)審査員特別賞、観客賞、第16回ニューヨーク・アジア映画祭(英語版)(2017年)観客賞、ほか海外映画賞多数受賞。
- 2) 萩上直子監督、映画『彼らが本気で編むときは』(2017年作品)。あらすじは<https://eiga.com/movie/84583/>を参照。

文 献

- 1) 文部科学省:性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について(27文科初児生第3号)、2015.4.30.
- 2) 柴田義松:授業の原理. 国土社, pp.118-119, 1974.
- 3) 柴田義松:前掲書2), p.118.
- 4) 国分一太郎:生活綴方読本. 百合出版, 1957.
- 5) 柴田義松:前掲書2), p.123.
- 6) 横須賀薫:教材・教具づくりの面白さの本命「概念くだき」と「ゆさぶり」. 保健室, 84:5-6, 1999.
- 7) NHK教育TV:[わくわく授業]岩辺京子先生の保健授業「目ざめを学んで、きょうもイキイキ!」(小3・保健指導). 2004.1.22.
- 8) 住田 実:再び、子どもたちの健康認識を育む〈ヨコ系(年間計画・指導)〉と〈タテ系(学年進行)〉を紡いで. 健康教室, 61(9):4-14, 2010.
- 9) 住田 実:子どもたちの健康認識を育む教材・授業づくりの4つの局面. 健康教室, 63(9):4-11, 2012.
- 10) 住田 実:[巻頭言]子どもの生活認識に寄り添う学校保健と保健教育. 学校保健研究, 59(6):1, 2018.